

大会規定

1. 1チームの登録選手は11名以上とし上限は設けない。但し、試合はメンバー表に記載された25名で行う事とするが試合ごとの変更は可とする。
2. 出場選手は平成29年8月12日現在連盟に登録及び傷害保険加入者に限る。
3. 試合前の審査は登録された選手全員を審査します。審査証は2017年度発行のものとする。
4. 各試合には選ばれた選手25名・代表・監督・コーチ・マネージャーのみベンチに入る事ができる。
一方チーム責任者が不在の場合は試合が出来ない。（変更がある場合は、審査の時に申し出る事。）
5. 監督・コーチは選手と同じユニフォームを着用する事。
マネージャーは選手と同じ帽子を着用する事。
6. 組合せの若い番号が1塁側のベンチ、後の番号が3塁側のベンチに入る事。
7. 試合開始の1時間前に試合会場に到着し、到着と同時に審査を受け審査後速やかにスターティングメンバー表を5部本部に提出する事。
8. メンバー表交換後に両キャプテンにより、先攻・後攻をジャンケンで決める。
9. 試合開始時間までにチームが到着していない時、主審は没収試合を宣言する事が出来る。
10. 中学生の部は準決勝迄の試合は7回戦とし、2時間を越えて新しいイニングに入らない。
(延長戦は行わない) 尚、同点の場合はタイブレークとする。
ジュニアの部は準決勝迄の試合は7回戦とし、2時間を越えて新しいイニングに入らない。
(延長戦は行わない) 尚、同点の場合はタイブレークとする。
中学生の部決勝戦は7回で2時間20分とし、時間内で3回までの延長戦を認める。
ジュニアの部決勝戦は7回戦で2時間とし、時間内で2回までの延長戦を認める。
尚、同点の場合はタイブレークとする。
11. 4回終了後10点差、5回終了後7点差の場合はコールドゲームとする。
12. 降雨、日没その他の理由により試合続行不可能となった場合は4回以上であればコールドゲームが成立、3回以内であればサスペンデッドゲームとする。
13. 試合前のシートノックは行わない。
14. 投手は同1日に7回以上投球する事が出来ない。連続する2日間において10イニング以内とする。
「投手のガイドラインを適用する。」
15. 攻守で監督及びコーチの指示・伝達は1試合で各2回の計4回を限度とする。延長に入った場合は、1回の指示・伝達を認める。（選手のけがや選手の交代等は回数にカウントしない）守備側の投手に対する指示・伝達が3回目となれば、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、同一イニング内で再び投手として登板する事は出来ない。内野手（捕手を含む）が2人以上投手の所に行つた時も1回に数える。
また、指示・伝達は主審がタイムを宣告してから「30秒以内」とする。
16. 監督またはコーチが選手にアドバイスする時は、マウンドのところで行う事。
17. 監督・コーチ及び選手は、審判のジャッジに対して絶対に服従し抗議する事を厳禁する。
但し規則上の疑義の申し出については、必ず監督または問題の当事者のみが、審判に説明を求めることが出来る。この場合「3分以内」規制する。
18. ヘルメットは1チーム同色7個揃える事。（各チーム持参する事）
19. バット・グローブ・スパイク等は連盟指定のものに限る。
20. 捕手は必ずユニフォームの下に規定の防具を試合及び練習を問わずに着用する事。
21. グランドの都合で大会のトーナメント規定が別に制定されるとそれに従う事。
22. 大会中の負傷については応急処置を行うが、それ以外の責任は持たない。
23. グランド規定は、そのグランド規定に従う。必ず試合を行う前に審判と両チームの監督・主将はミーティングを実施し、グランド規定を把握しておく事。
24. その他の規定は、日本少年野球連盟の規定に従う。
25. 試合終了後、両チームの選手はグランド整備に協力することとする。